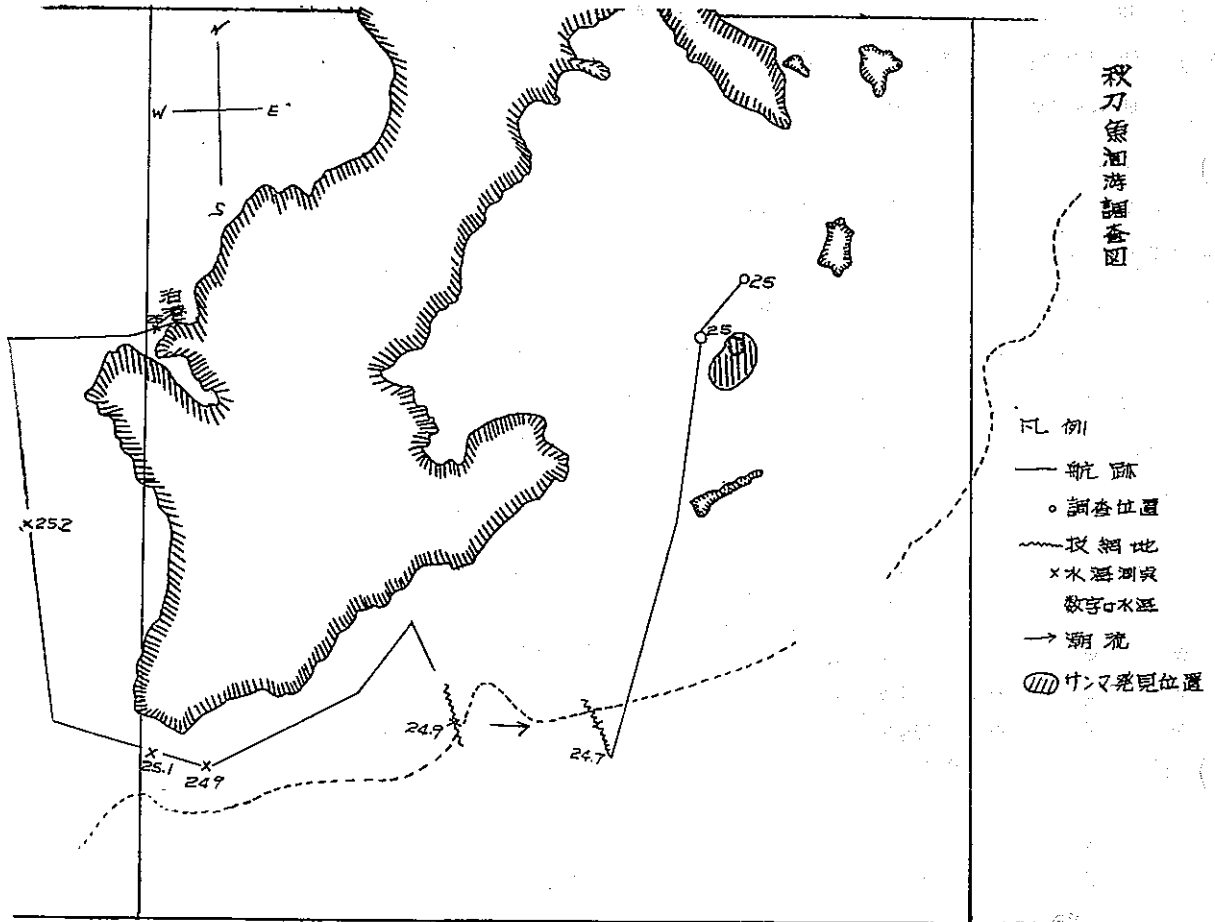


## 7) 考察

前年度の調査結果から推察して1月下旬から2月下旬頃迄が近海では最も水温の低下する時期であり又其の頃が群襲する最盛期の様である。今年10月下旬頃中城湾内に入り込んだ魚群は当時水温も25℃内外を示し下降の途上でもあり来游の初期だと考へられ今後季節風の吹出しと水温下降に伴なつて群襲するんじゃないかと考へられる。



## 2 鯖跳釣漁業試験

前年度から継続事業として実施して来たが、沖縄の鯖跳釣漁業は年々衰退し現在では琉水社の1~2隻が鯖棒受に転じた丈で、一般漁船は該漁業を放棄してしまつた。其の理由としては、(1) 漁場の安定性がなかつた。(2) 船体が小型であ

る。(イ) 冬季 季節風の吹出す頃が漁期である。(ニ) 餌料代が高くつく事及び技術が足らなかつた事等色々あげられると思うが、いづれにしても結論が出せる迄は調査研究をしなければいけないと思う。

#### 1) 航海経過

1958年12月12日至12月17日と59年2月17日至2月25日の2回に亘つて実施したが、2次試験は時化の為操業不能で帰港した。

2) 使用船舶 備船 漁集丸 30 ton

#### 3) 調査項目

a 漁場調査 b 餌料節減試験 c 魚体調査 d 海況、気象観測

#### 4) 調査海域

(a) E124° - 22' ~ 124° ~ 36' N27° - 55' ~ 28° - 02' の98平方浬の範囲で其の中漁獲のあつた場所はE124° - 22', N27° - 57' の漁場とE124° - 27', N28° - 02' の農林海区515, 514の二ヶ所である。

#### 5) 事業の概要 (一次試験)

E124° - 22', N27° - 57' (515区)の漁場は其の中心から凡そ半径10海浬以内では日本鯖船が70余隻も操業を続けている模様だが各船共に餌付が悪いと思われ屢々小さく漁場を移動する様な傾向があつた。又当方の調査漁場では大群を探索したが魚体が大小型入り混つて居り、大型魚で500g余りの3~4年魚小型の方で、250g以内の2年魚程度と推量される。混棲群で漁場を賑わしていたが該魚群は浮上するのが速く点灯5分後には本船の両舷の灯火に集魚し翌朝迄離船せず漁獲される状況であつた。当時の水温19.5℃

E124° - 27' N28° - 02' の漁場は前場所から南西方7浬離れた地点で附近にも日本鯖船が7~8隻位操業していた。魚群は夜半迄は前回同様大小型入り混つた混棲群で餌付は日没直後の操業当初から少々良好であつた。又時間の経つに従つて魚群も増大する一方で午前零時頃からは大型群の単一群に変わり餌付も良好となつたが餌料不足で午前1時30分操業を打切つた。当時の水温19.9℃で少し上昇していた。

#### (b) 餌料節減試験

該試験は56年度から実施しているが昨年共は天候に災いされ何等試験結果を得る事が出来なかつたが今回の試験では酵素鋸屑及び穀殻飼料に依る鯖撤餌

が若干節減出来る可能性を認めた。其の結果は下表の通りである。

月 日	12月14日	12月15日
漁 経度	124° - 22'	124° - 27'
場 緯度	27° - 57'	28° - 02'
水 温	19.5°C	19.9°C
餌料配合量	夜半迄は鋸屑餌料1俵に対するサンマ7% <sub>S</sub>	鋸屑餌料1俵に対するサンマ5% <sub>S</sub>
操業開始時	13h - 00'	18h - 20'
操業終了時	15日 07h - 00'	16日 01h - 30'
使用竿数	12本	12本
漁 全員	990Kg	998Kg
獲 1人当(平均)	82Kg	83Kg
摂餌状況	鋸屑餌料1俵にサンマ7% <sub>S</sub> の配合餌料とサンマ丈の場合と摂餌状況は前夜後夜共に変りは認められず一般的に餌付は余り良くない。	前日より更にサンマ2% <sub>S</sub> 節減して試験したが漁獲当初から餌付状況は少々良好。

(c) 魚 体 調 査

No.	種名	全長	体高	体巾	重量g	胃 内 容 物
1	ゴマサバ	33.0cm	7.0cm	5.0cm	440	アミ、サンマ、アミシラス、サバ、その他消化物
2	〃	34.0	6.9	5.2	500	アミ、サンマ、その他消化物
3	〃	29.0	5.7	4.9	300	アミ、アミシラス、サバ、サンマ、その他消化物
4	〃	28.0	5.6	4.2	280	アミ、アミシラス、サバ、サンマ、バイエム(鋸屑餌料)
5	〃	28.5	6.0	4.4	280	アミ、サバ、バイエム、サンマ、その他消化物
6	〃	29.0	5.5	4.1	270	アミ、イカ、サバ、サンマ、バイエム、Copepoda 其他不明
7	〃	28.5	5.7	4.2	230	
8	〃	28.5	5.8	4.5	300	アミ、アミシラス、バイエム、その他消化物
9	〃	29.5	6.0	4.0	300	
10	〃	27.5	5.7	4.2	260	アミ、アミシラス、Copepoda、バイエム、その他消化物
11	〃	28.0	6.0	4.6	340	
12	〃	28.5	5.9	4.3	280	アミ、サンマ、アミシラス、その他消化物
13	〃	27.5	6.0	4.4	290	アミ、サンマ、アミシラス、バイエム、その他消化物
14	〃	26.5	5.3	4.3	250	
15	〃	28.4	5.8	4.6	310	
16	〃	28.5	5.7	4.3	283	アミ、サンマ、バイエム、その他消化物
17	〃	29.0	6.1	4.5	318	バイエム、アミ、サンマ、サバ、その他消化物
18	〃	28.3	6.1	4.5	300	アミ、サンマ、サバ、バイエム、その他消化物
19	〃	27.5	5.2	4.3	260	アミ、サンマ、サバ、その他消化物
20	〃	28.0	5.7	4.5	300	アミシラス、サバ、バイエム、その他消化物

## (d) 海況及気象観測

月日	時刻	天候	雲量	風向	風力	気温	気圧	波浪	うねり	水温	観測地
12 12	16	c	7	NE	2	25.5	1025.0	2	2	23.0	渡嘉敷港
12 13	8	o	9	NE	3	21.4	1024.5	2	1	22.8	〃
〃	12	Bc	4	NE	3	22.0	1024.0	2	2	22.8	〃
〃	16	o	9	NE	2	22.6	1023.0	2	1	23.1	航行中
	21	o	9	NE	2	22.2	1025.0	3	3	23.1	〃
	24	o	9	NE	3	22.3	1025.0	3	3	23.1	〃
12 14	3	o	10	NE	3	22.2	1023.0	3	3	19.8	鯖漁場
	6	r	10	NE	2	22.2	1022.5	3	3	17.2	〃
	9	r	10	NE	2	22.2	1024.0	3	2	19.5	〃
	12	o	9	NE	2	22.1	1022.0	3	2	19.6	
	15	o	10	NE	2	22.1	1022.0	3	2	19.8	
12 15	8	o	9	NE	2	22.2	1022.0	3	3	19.9	
	12	o	9	NE	3	22.2	1022.0	3	3	19.9	
	16	o	9	NNE	3	22.4	1022.0	3	3	19.6	帰港中
	20	o	9	NNE	3	19.8	1020.0	3	3	17.7	〃
12 16	8	o	9	NE	3	20.0	1020.0	2	1	23.0	渡嘉敷港内
	12	o	9	NE	3	20.0	1025.0	2	2	23.1	〃

## 考 察

(イ) 今回漁獲のあった場所は前述の農林海区514、515区の二場所で、該漁場は例年より東海の中心漁場として活況を呈していたが今年も平年と何等変化が見られず日本漁船が20-30隻位操業している状況で安定した漁場だと推量される。

## (ロ) 餌料節減試験について

今年第1~2次調査で酵母鋸屑及粃殻飼料が鯖漁業の撒餌として利用出来る可能性を確認したので更に試験回数を重ねて行けば深海一本釣漁業の「カブシ」にも利用出来るものと考へられる。

尙配合割合については今後の試験結果で明らかにされるものと思ふ。

